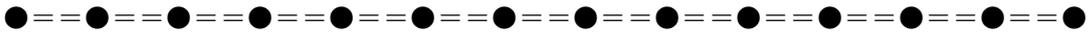
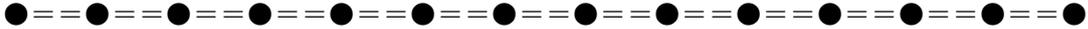


平成28年3月10日発行



B i o T e c h T O K A I ーメールマガジン 第135号ー

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会



\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆ミツカンミュージアム見学と食品表示セミナー (平成28年3月13日)
  - ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会研究会 (平成28年3月24日)
  - ☆第66回日本木材学会 (名古屋) 公開シンポジウム (平成28年3月28日)
- 2. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆農林水産省等のイベント情報のURL
- 3. 競争的研究資金について
  - ☆平成28年度委託プロジェクト研究 (農林水産省)
  - ☆平成28年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省)
  - ☆平成28年度二枚貝資源緊急増殖対策委託事業 (水産庁)
  - ☆平成28年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) (独・日本学術振興会)
  - ☆平成28年度戦略的省エネルギー技術革新プログラム (NEDO)
  - ☆平成28年度マッチングプランナープログラム『企業ニーズ解決試験』 (JST)
  - ☆平成28年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ2  
シーズ育成タイプ (JST)
  - ☆平成27年度研究成果最適展開支援プログラム ステージ3 NexTEP-タイプ (JST)
  - ☆平成27年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
  - ☆民間の競争的研究資金を10件掲載
- 4. 新技術情報
  - ☆農林水産・食品分野の新技術の紹介 (1件)

\*\*\*\*\*

◆1◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆ミツカンミュージアム見学と食品表示セミナー

食品品質プロフェッショナルズは、株式会社 Mizkan Holdings 様のご協力を得て、下記の要領でセミナーを実施します。今回のテーマは、昨年新たに施行されました食品表示法に関連した食品表示についてです。また、昨年11月18日にグランドオープンしたばかりのミツカンミュージアムを見学し、酢づくりと日本の食文化について造詣を深めていきます。

【開催日時】2016年3月13日(日) 11:00~16:45 開場受付10:40 開始

【開催場所】 株式会社 Mizkan Holdings 本社棟 会議室（ミツカンミュージアム隣接）  
（〒475-8585 愛知県半田市中村町 2-6 Tel:代表 0569-21-3331）  
ミツカンミュージアム HP の地図 <http://www.mizkan.co.jp/mim/access.html>

【主催】 食品品質プロフェッショナルズ

【プログラム】

- 11:00 - 11:30 ミツカングループ (株) Mizkan Holdings  
海外事業展開とグローバルガバナンス 担当者
- 11:30 - 12:40 ミツカンミュージアム見学 同上
- 12:40 - 13:15 昼食
- 13:15 - 14:00 食品表示の概略 関西食品技術士センター幹事 徳永浩二氏
- 14:00 - 15:00 食品表示法で変わる食品表示 食品品質プロフェッショナルズ西山哲郎氏
- 15:00 - 15:15 休憩
- 15:15 - 16:30 食品表示の現状と事例  
機能性表示食品の現状 大塚製菓(株)清水精一  
行政の観点からの問題事例等 司会：西山哲郎  
会場参加者
- 16:30 - 16:45 食品品質プロフェッショナルズ紹介 食品品質プロフェッショナル担当者
- 17:00 - 18:30 交流懇親会

プログラムは、講師の都合等により変更する事があります。

【参加費】 見学・セミナー参加費 3000 円（午前からの参加者には軽食付き）  
交流会参加費 3000 円

【参加申し込み登録】 2016 年 3 月 11 日（金曜）までに下記URLの必要事項を E-mail によりお知らせください。このファイルに記入して返信して頂いても結構です。折り返し登録完了のE-mail を返信致します。

URL : <http://www.biotech-tokai.jp/acv/pdf/H28syokuhinpro.pdf>

尚、会場の都合により席に限りがありますので満席になり次第受付を終了します。

E-mail 宛先 : [whoswhojpn@yahoo.co.jp](mailto:whoswhojpn@yahoo.co.jp)

食品品質プロフェッショナルズ名古屋支部 水野

.....  
☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 研究会

中部異業種間リサイクルネットワーク協議会では、毎月、研究会を開催していますが、3月には、下記の内容で行われます。

【開催日時】 平成28年3月24日（木）14時～17時

【開催場所】 名古屋市市民活動推進センター 研修室  
ナディアパーク・国際デザインセンタービル6階 052-228-8039  
エスカレーターで上がると降りた直ぐ前が入り口です。  
(名古屋市中区栄三丁目18番1号)

【内容】

14:00-15:30

「電力自由化と中部電力の取り組みについて」

中部電力株式会社 お客様本部 副長 水谷浩子 氏

15:30-17:00

「水素社会の到来と我々の生活 ほか」

MAトラスト株式会社 代表取締役 浅野 真 氏

【講演会の会費】 会員：無料 非会員：1,000円

【交流会】（自由参加）会費 3,000円 新栄 うお浜

\*会場周辺には駐車場がたくさんあります（全て有料）。

\*出欠連絡は、メールにて、下記までご連絡下さい。

e-mail [t.esaki0417@nifty.com](mailto:t.esaki0417@nifty.com) 江崎 忠男様宛て

.....  
☆第66回日本木材学会（名古屋）公開シンポジウム

「国産材・地域材の利用促進のために、今できること

新技術は日本の森林・木材産業を救えるか？」

【開催日時】 2016年3月28日（月）14:30～17:00

【開催場所】 名古屋大学 名古屋大学豊田講堂

（地下鉄名古屋大学下車）

【開催要領】 <http://www.biotech-tokai.jp/acv/pdf/mokuzai-shinpo.pdf>

第1部：講演（14:30～15:50）

1) 林野庁次長：沖 修司 氏

林業の成長産業化と地方創生－国産材の需要拡大に向けて－

2) 秋田県立大学 木材高度加工研究所長：林 知行 氏

地方創成最前線－秋田県立大学木材高度加工研究所の取組み－

3) 森林総合研究所 バイオマス化学研究領域木材化学研究室長：山田竜彦 氏

地方創生へ貢献する新しいバイオリファイナリー産業の創出

第2部：パネルディスカッション（16:00～17:00）

沖 修司 氏、林 知行 氏、山田竜彦 氏

司会：福島和彦（名古屋大学）、関雅子（産業総合研究所）

【主催】 一般社団法人日本木材学会 NPO法人才の木

【問合せ先】 [info@sainoki.org](mailto:info@sainoki.org)（NPO法人才の木）

【参加無料・申込不要】

◆2◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産省農林水産技術会議事務局では、農林水産関係の国立研究開発法人等の開催するイベントを紹介しています。イベントカレンダーのURLは下記の通りです。

<http://sto.affrc.go.jp/event/calender>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○国立研究開発法人農業環境技術研究所が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.niaes.affrc.go.jp/sinfo/sympo/sympo.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 3 ◆ 平成 27～28 年度競争的研究資金等について

☆平成 28 年度委託プロジェクト研究

(農林水産省)

[http://www.s.affrc.go.jp/docs/project/2016/project\\_2016\\_1.htm](http://www.s.affrc.go.jp/docs/project/2016/project_2016_1.htm)

【分野等】

- 1) 市場開拓に向けた取組を支える研究開発
- 2) 農林水産分野における気候変動対応のための研究開発

【公募期間】平成 28 年 2 月 1 日～3 月 2 2 日

☆平成 28 年度官民連携新技術研究開発事業

(農林水産省)

<http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/160215.html>

【分野等】

- ア 農地の大区画化・汎用化に資する技術
- イ 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
- ウ 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
- エ 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
- オ 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術 他

【公募期間】平成28年2月15日～3月30日

☆平成 28 年度二枚貝資源緊急増殖対策委託事業

(水産庁)

[http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/itaku/160210\\_2.html](http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/itaku/160210_2.html)

【分野等】タイラギやハマグリ等の天然採苗が難しい二枚貝類の人工種苗生産技術の開発を行い、二枚貝資源を増大させる手法を確立する。

【公募期間】平成 28 年 2 月 1 0 日～3 月 1 7 日

☆平成 28 年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金)

(独・日本学術振興会)

[http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/22\\_startup\\_support/koubo.html](http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/22_startup_support/koubo.html)

【分野等】 前年秋の公募時期に応募できなかった研究者が一人で行う研究計画であって、その研究活動のスタートを支援することにより、将来の発展が期待できる優れた着想を持つ研究計画

【公募期間】 平成28年3月1日～5月9日

☆平成28年度戦略的省エネルギー技術革新プログラム (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/DA2\\_100105.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/DA2_100105.html)

【分野等】 現行の「省エネルギー技術戦略」で掲げる「重要技術」および「特定技術開発課題」を中心に、高い省エネルギー効果が見込まれる技術開発を対象として助成する。

【公募期間】 平成28年2月15日～3月16日

☆平成28年度マッチングプランナープログラム『企業ニーズ解決試験』 (JST)

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

【分野等】 企業の競争力強化に資するべく、企業ニーズの解決等のため、大学等を対象に大学等のシーズを活用した試験研究等を支援する。

【公募期間】 平成28年2月1日～3月15日

☆平成28年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ2 ・シーズ育成タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h28stage2-1.html>

【分野等】 大学等のシーズの実用性検証フェーズにおいて、中核技術の構築を目指した産学共同研究開発を支援する。

【公募期間】 平成28年3月1日～5月10日

☆平成27年度研究成果最適展開支援プログラム ステージ3 : NexTEP-Aタイプ (JST)

本制度では、企業ニーズを踏まえた、企業による大学等の研究成果（研究シーズ）の実用化開発を支援しています。

【応募要件】 実用化を目指す未だ企業化されていない新規の研究シーズが存在し、かつ、JSTへの独占的実施権の設定に関して、当該研究シーズ所有機関等による同意が得られていること。

【応募企業要件】 ・日本国内に法人格を有する企業であること  
・開発成功後、開発費の返済ができる財務基盤を有すること  
・開発成果を実施できる体制を有すること

【公募期間】 平成27年10月15日（木）～平成28年3月31日（木）正午

【公募概要】 <http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/index.html>

【公募要領】

[http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h27-nextep-a/h27-a-step-nextepa-tunen\\_kouboyouryou\\_01.pdf](http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h27-nextep-a/h27-a-step-nextepa-tunen_kouboyouryou_01.pdf)

【研究開発期間】 原則10年以下

【研究開発費】 ～15億円

- ・ 開発成功時：開発支出額を10年以内の年賦返済（無利子）又は一括返済
- ・ 開発不成功時：開発支出額の10%を返済
- ・ 開発成果実施時は、売上に応じて実施料納付

☆平成27年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)

情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されています。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術
- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトをはじめ、幅広くICTそのものの技術やICTを活用して農業、医療、交通、教育などの異分野との融合をはかり、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発課題です。

【公募期間】 平成27年5月18日～平成27年度中はいつでも応募可能

【公募概要等】 [http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000127.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000127.html)

【公募要領】 [http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000357699.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000357699.pdf)

『民間の競争的研究資金』

☆特定非営利活動法人酵母細胞研究会：「地神芳文記念研究助成金 平成28年度募集」

<http://www.yeast.umin.jp/h28jigami-fund.html>

分野等：酵母、糖鎖に関する研究

公募締切日：平成28年3月31日

(2月号新規掲載)

☆一般財団法人フォーデイズ自立支援協会：「助成金」

<http://fordays.or.jp/entry.html>

分野等：

- 1) 予防医学的研究
- 2) 予防医学の有用性に関する研究
- 3) アンチエイジングに関する研究
- 4) DNAやRNAに関する研究
- 5) 栄養学に関する研究
- 6) その他ライフサイエンスや自然科学等の分野において当協会が有用と認める研究

公募期間：平成28年1月4日～3月31日 (2月号新規掲載)

☆一般財団法人東和食品研究振興会：「平成28年度学術奨励金」

<http://www.towashokuhin.or.jp/academic/index.html>

分野等：

- 1) 食品の加工・保蔵に関する研究
  - 2) 食品の安全性に関する研究
  - 3) 食品の機能性に関する研究
  - 4) 食品または水産分野におけるバイオテクノロジーに関する研究
  - 5) 食品の未利用資源（または廃棄物）の有効利用に関する研究
- その他食品科学に関する研究 他

公募期間：平成28年12月18日～3月31日 (2月号新規掲載)

☆公益財団法人日本生命財団：「平成28年度ニッセイ財団環境問題研究助成」

[http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/kankyo/02\\_gaiyo.html](http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/kankyo/02_gaiyo.html)

分野等：人間活動と環境保全との調和に関する研究

公募期間：平成28年2月1日～4月4日 (3月号新規掲載)

☆一般財団法人水源地環境センター：「WEC応用生態研究助成」

<http://www.wec.or.jp/support/season/index.html>

分野等：

- ・ダム貯水池に係わる生態系・水環境（上下流・周辺を含む）に関する研究
- ・生態系への影響を踏まえたダム貯水池に係わる土砂動態に関する研究

公募期間：平成28年2月10日～4月5日 (3月号新規掲載)

☆公益財団法人武田科学振興財団：「2016年度生命科学研究助成」

<http://www.takeda-sci.or.jp/assist/life.html>

分野等：健康増進に寄与する生命科学分野の進歩、発展に貢献すると考えられる研究

公募期間：平成28年1月6日～4月5日 (2月号新規掲載)

☆公益財団法人武田科学振興財団：「2016年度ライフサイエンス研究奨励」

<http://www.takeda-sci.or.jp/assist/lifescience.html>

分野等：健康増進に寄与する生命科学分野の進歩、発展に貢献すると考えられる研究

公募期間：平成28年1月6日～4月5日 (2月号新規掲載)

.....  
☆一般財団法人バイオインダストリー協会：「2016年度発酵と代謝研究奨励賞」

[http://www.jba.or.jp/pc/activitie/research\\_encouragement/info/002050.html](http://www.jba.or.jp/pc/activitie/research_encouragement/info/002050.html)

分野等：バイオサイエンスおよびバイオテクノロジーに関連する自然科学分野で、発酵をはじめとする応用微生物学分野の研究において優れた実績を上げ、大きな貢献が期待される若手研究者

公募期間：平成28年1月18日～5月9日 (2月号新規掲載)

.....  
☆一般財団法人バイオインダストリー協会：「2016年度化学・生物素材研究開発奨励賞」

[http://www.jba.or.jp/pc/activitie/research\\_encouragement/info/002049.html](http://www.jba.or.jp/pc/activitie/research_encouragement/info/002049.html)

分野等：バイオテクノロジーまたはライフサイエンスに関連する化学またはバイオの素材に関する分野で、基礎・応用研究および利用技術開発に携わる有望な若手研究者

公募期間：平成28年1月18日～5月9日 (2月号新規掲載)

.....  
☆公益財団法人関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団：「平成28年度研究助成」

<http://www.krf.or.jp/research>

分野等：エネルギー・リサイクル分野、総合防災科学分野

公募期間：平成28年1月5日～8月31日 (2月号新規掲載)

◆ 4 ◆ 新技術情報

☆農林水産関係分野等の新技術情報の紹介

園芸関係（野菜）：施設栽培のカラーピーマン、ピーマン、トウガラシ類を加害するアブラムシ類に対してギファブラバチが生物農薬として登録された

ジャガイモヒゲナガアブラムシは、カラーピーマンの果皮に傷を付けたり、すす病で果皮を汚す被害を与えますが、これまでアブラムシ類に登録のあるコレマンアブラバチ（商品名：アフィパール）では効果が得られません。今回、生物農薬されたギファブラバチ（商品名：ギフパール）は、ジャガイモヒゲナガアブラムシ等のヒゲナガアブラムシ類にも効果があります。ギフパールの販売は、今年の夏～秋から開始される予定です。

ギファブラバチの天敵利用に関する実用化研究は、農林水産省の農食研究推進事業において、研究開発法人農研機構・野菜茶業研究所、鹿児島県農業開発総合センター、岐阜県農業技術センター、長野県野菜花き試験場、琉球産経、アリストライフサイエンス株式会社の研究グループによって行われ、3年間（平成25～27年間）の研究期間で生物農薬として登録まで済ませるという成果が得られました。更に、施設栽培ナスでの登録拡大に向けて取り組まれています。

ギファブラバチの使用法は、ボトルに入ったギファブラバチを定期的に放虫するか、バ

ンカー法のいずれかで行われます。バンカー方法は、ピーマン等には寄生しない種類のアブラムシ（例えば、ムギヒゲナガアブラムシ）をプランターに植えた麦に寄生させ、これに少数のギフアブラバチを放して寄生させ、次世代以降のギフアブラバチにピーマン等に寄生したアブラムシを攻撃させるという方法です。ギフアブラバチの具体的な使用法については、マニュアルが作成され、後日、印刷物とホームページに掲載される予定です。

施設栽培ピーマン類、トウガラシ類において、天敵利用によって減農薬栽培を行うことにより、特別栽培野菜（各県に農薬使用回数等の栽培基準あり）として高付加価値化して販売し、同時に、農業生産者の農薬による健康被害を防止することにもなります。

関係URL：

1) 農食研究推進事業研究計画：<https://www.s.affrc.go.jp/docs/gaiyou/pdf/25053c.pdf>

2 天敵殺虫剤『ギフパール®』の農薬新規登録のお知らせ

<http://arystalifescience.jp/wp/wp-content/uploads/2016/01/271a83a706259b178ba84115e1e97343.pdf>

.....

#### 編集後記

3月に入り、東海地方の各地の梅林が花盛となっており、桜の開花も早まると予想されています。一方、2015年の世界の平均気温は史上最高であった2014年を更に上回ったと公表されました。エルニーニョ現象の発達もあり、海水温の上昇が顕著であり、このためか、伊勢湾でのコウナゴが著しく不漁で史上初めて禁漁となるようであり、また、褐藻類などの天然藻場の消失、養殖ノリの色落ち現象など、海の生態系への影響が現れているようです。地球温暖化防止策とともに、生産現場でも農林水産業の地球温暖化への適応策を考え、進めていくことが重要となっています。

(気象庁 HP：<http://www.jma.go.jp/jma/press/1512/21d/worldtemp2015.pdf>)

ところで、最近読んだ本に、山浦晴男著「地域再生入門 ―寄り合いワークショップ入門―」ちくま新書（2015年12月発行）があります。著者は、文化人類学者の川喜多二郎氏がデータをまとめるために考案したKJ法（著者は質的統合法と呼んでいる）を地域再生のために地域住民がワークショップを行うときのツールとして使用すれば、問題の発見、解決策の発見、実行計画の策定にたいへん有用であると述べています。また、この方法を使うことによって、地域住民による情報の共有化が図られ、合意形成がし易くなる述べています。著者は、東日本大震災の被災地、台風被災地における地域住民による内発的な地域再生をこの方法によって支援した経験を含めて、成功事例、課題などを例示しています。更に、地域再生に当たっては、1) 住民の手で持続可能な地域づくりをすること、2) 地域経営の手綱を取り戻すこと、3) 経済のグローバル化に見合うローカライズ化を図ることなどの重要性についても述べています。地域再生・活性化に携わっておられる方々にとって、本書は大変参考になると思います。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX 052-789-4586

E-mail : bio-tech.co\*go8.enjoy.ne.jp \*を@に書き換えてください

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>